

## 令和4年度（2022年度）第2回北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会 議事概要

### 1 日時及び場所

日時：令和5年（2023年）3月20日（月）10時00分から12時00分まで

場所：北海道庁別館西棟3階1号会議室

### 2 出席者

<構成員：2名>

白杵 勲 札幌学院大学人文学部 教授（座長に選出）

澤井 玄 北海学園大学 非常勤講師

<竪穴群調査の実施に関係を有する者：1名>

立田 理 北海道立埋蔵文化財センター指定管理者

（公財）北海道埋蔵文化財センター 主査

<北海道教育委員会：5名>

高見里佳課長、藤原秀樹課長補佐、ほか3名

<傍聴者：0名>

### 3 話題提供及び意見交換

〈話題提供〉

・事務局が北海道東部の竪穴住居跡群調査第3次調査実施計画の概要及び令和4年度竪穴群現況調査について、（公財）北海道埋蔵文化財センターが令和4年度重要遺跡確認調査についてそれぞれ説明した。

・令和4年度の竪穴群現況調査について、宗谷総合振興局管内の浜頓別町における調査内容が報告された。3箇所を対象に、ハンドヘルドGPSを用いて竪穴分布を測量し、取得した座標情報および空撮写真等をGISソフトで処理し、図面等を作成した。今回の測量により竪穴の分布範囲及び位置関係を把握する上で有用な基礎情報を取得でき、また調査対象とした竪穴群の保存状況は、時間を経ても概ね良好であることが確認された。今後の課題として、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲の修正の必要性、及びその範囲の精度を高めるための継続的な現地踏査による分布調査の必要性が挙げられた。

・令和4年度重要遺跡確認調査について、オホーツク総合振興局管内の興部町に所在する興部豊野竪穴群（B）での調査内容が報告された。総計26箇所の竪穴が確認され、測量結果に基づき竪穴の分布状況等が報告された。

〈意見交換〉

事務局等からの説明に対して、事実関係や個別事項について確認等が行われた。主な意見は以下の通りである。

**澤井氏**：第3次調査実施計画が6年間とやや長めに設定された理由について聞かせてほしい。

**事務局**：第1・2次調査を経て、竪穴群の個別の状況をさらに詳細に調査する必要があると判断されたことから、期間を長く設定した。

（公財）北海道埋蔵文化財センター：令和5年度の重要遺跡確認調査では、興部豊野竪穴群（B）において、発掘調査を行い竪穴の性格及び時期を検討するための基礎資料を得たい。

**白杵氏**：個々の遺構の性格や遺跡内における竪穴の変遷を確認するため、必要に応じて面積を設定すべきと考える。道指定史跡「興部豊野竪穴住居跡」の指定範囲の確認のためにも、発掘調査では適切な面積を調査すべきと考える。

**白杵氏**： 堅穴群現況調査により周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲について、修正の必要性や検討すべき課題が生じた場合、その後どのような手続きを経るのか。

**事務局**： 地元教育委員会と協議し、修正作業等を適切に行っていく。

**事務局**： 興部豊野堅穴群（A）及び（B）は、お互いにどのような関係が想定されるのであろうか。

**澤井氏**： 前者はオホーツク海に面していることから、海との関係が深い堅穴群と考えられ、後者は瑠椽川に近接していることから、河川資源との関わりが深い堅穴群と想定される。